

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

高校生日本語弁論大会で入賞



アブル ラタジさん

パキスタン・イスラム共和国出身
宮城県松山高等学校2年生
大崎市在住

— 来日した時のことを教えてください。

私はサウジアラビアで生まれ育ちました。現地のインターナショナルスクールに通い、夏休みの時などにパキスタンに帰国するという生活でした。サウジアラビアは、家の外がとても暑く、当時は治安の面で不安があり外ではなかなか遊ぶことができず、英語の本をよく読んでいたのを覚えています。父が日本で車を輸出する仕事をしており、呼び寄せられる形で家族一緒に日本へ引っ越すことになったのは小学校4年生のときのことでした。

— 日本に来て、学校での勉強はどんな大変さがありましたか。

小学校に編入してしばらくは、兄や弟と一緒に別室で日本語を学びました。漢字で苦労することが多く、一つの漢字でも音読みと訓読みがあって覚えるのが大変でしたが、書いたりなぞったり、部首で読み方を覚えたりと工夫しました。5年生になると、少しずつ日本語が分かるようになり、係や委員会活動を通じて日本人の子どもたちと話すようになって、友だちになることができました。小学校5年生から中学校3年生までは、サポートしてくれる日本人の先生がついてくださり、他の子どもたちと同じ教室で授業を受けるようになりました。

中学校に入ってからは、それまで苦手だった国語が好きになりました。特に漢文が好きで、文が読めなくても漢字の意味をパズルのように組み立てて理解できるのがおもしろかったです。高校に入ってから、サポートしてくれる先生がつかなくなると、最初は不安がありました。分からないところは先生に尋ねたり、タブレットでChatGPTを使って調べたりすることで授業についていけるようになりました。そのおかげで高校に入ってから歴史や地理が好きになりました。

— 日本の学校に通いながらのイスラム教徒としての生活はどのようなものですか。

基本的に夜明け前に起きてお祈りをして、また眠ってから学校に向かいます。学校と部活が終わったら、帰宅してから食事をとってコーラン(イスラム教の聖典)を読んで、お祈りをして眠ります。普段



弁論大会で発表している様子

(写真提供:宮城県高等学校国際教育研究会事務局)

は学校の授業を優先して、家に帰ってからまとめてお祈りをすることが多いですが、イスラム教の断食月であるラマダンの時は、他の生徒が給食を食べている間に部室に行ってお祈りをします。

イスラム教の教えに基づいたハラールの食品しか食べることができないため、学校での食事は来日当初からずっとお弁当です。母がシャワルマという肉と野菜をいためたパキスタンの料理を持たせてくれることが多いです。日本に来て他の日本人の子のお弁当を見た時、おかずの種類が多いのに驚きました。パキスタンではあまりおかずの種類を入れないのですが、母にお願いして少し種類を増やしてもらいました。

— 今年8月に開催された第24回高校生日本語弁論大会に東北代表として出場し、国際協力機構理事賞に輝いたと聞きました。

私は小学生の時に来日したパキスタン人として、他の人がしていない経験を多くしてきたので、それをみんなに伝えたいという思いがありました。今回の弁論大会では、勉強面で頑張ったこと、それから友だちづくりで意識したことの二つを中心に発表しました。勉強面では日本語があまり分からなかったことで、勉強をあきらめかけたこともありましたが、父の「あなたは日本語を喋れるけど、自分で勝手に喋れないと思っ込んでるだけだよ」という言葉に背中を押され、高校入試を乗り越え、試行錯誤しながら勉強に取り組んでいることをお話ししました。

また、友だちづくりについては、ネガティブでいると周りに人が近づいて来なくなるという気づきから、ポジティブでいることを意識していることを伝えました。それから、日本のことをもっと知りたいと思っていること、それと同時にパキスタンのこともより多くの人に知ってほしいという思いもお話ししました。

「みやぎの多文化な人」の続き

今回の大会出場のために、何度も一人で練習をしましたが、それも楽しかったです。今回の受賞は私自身とても嬉しかったです、家族もすごく喜んでいました。

—これからどんなことにチャレンジしてみたいですか。

高校を卒業したら、進学して国際的な仕事につけたらいいなと考えているのですが、まだ具体的なところはこれから決めていきたいと思っています。今までの経験や自分の語学力を生かせる、通訳の仕事にも興味がありますが、職場体験で参加した介護の分野にも関心があります。母は家のことよりも勉強をなささいと言ってくれていて、父も何でもいいからやりたいことを頑張りなさいと応援してくれていてありがたいです。

担任の黒須慎矢先生から

ラタジさんは裏表がなく、明朗で、好奇心旺盛な生徒です。いつもクラスを中心にいるような存在でもあります。昨年の文化祭では、クラスの出し物として、ステージでパキスタンの結婚式を紹介してもらいました。パキスタンでは5日間結婚式が続くことを紹介したり、実際の衣装を男子生徒たちがカップル役で披露したりして大変盛り上がりました。ラタジさんがパキスタンのことを紹介するいい機会となりました。これを機に他の生徒もパキスタンのことを積極的に知ろうとしたり、日本のことを教えたりと互いにとってより良い関係になりました。

多文化なトピック

気象庁の多言語防災気象情報

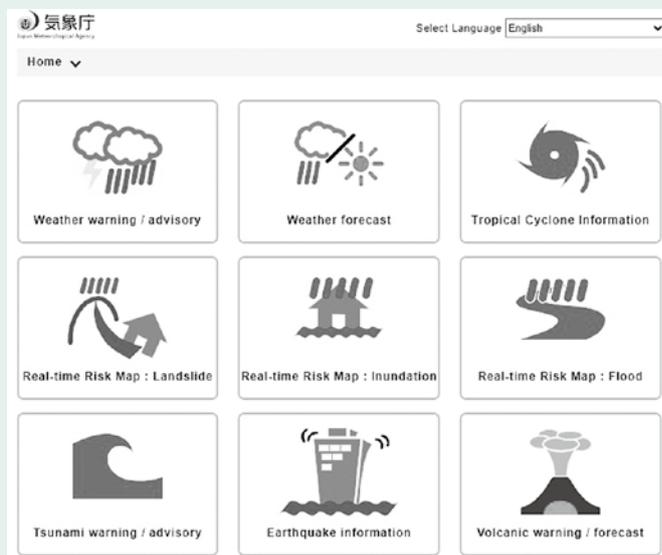
気象庁では、外国人の方々が安心・安全に暮らすことができるよう、ホームページにおいて下記の14言語で防災気象情報を提供しています。日々の生活に役立つ天気予報をはじめ、緊急時に役立つ気象特別警報・注意報や、地震情報なども地域別に見ることができます。

【対応言語】

- 英語 ● 中国語(簡体字・繁体字) ● 韓国語
- スペイン語 ● ポルトガル語 ● インドネシア語
- ベトナム語 ● タガログ語 ● タイ語
- ネパール語 ● クメール語 ● ビルマ語
- モンゴル語 ● 日本語

【気象庁HP】

<https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/multi.html>



多文化共生の輪が広がっています！ 「まるもり日本語ひろば」のご報告



月末の日曜日に、「まるもり日本語ひろば」が開催され、町内在住の外国人と日本人とが集い、日本語であれこれ会話をしながら交流を深めています。

この「ひろば」は、「地域日本語教育体制構築業務」(宮城県委託事業)の一環として、MIAも協力しながら、町の主催事業として行われているものです。

毎回、技能実習生等の十数名の外国人と、「日本語交流サポーター育成講座」受講生を中心とした日本人サポーターが参加し、テーマに則した会話やさまざまなアクティビティに取り組むことで、外国人側の日本語能力を高めることや相互理解を深めることなどを目指しています。

8月の会のテーマは「買い物」。町内のおすすめの買い物スポットや飲食店などについて情報交換をしました。日本人サポーターのTさんからは、ご自身の勤め先であるパン屋さんや、近隣の生鮮食品を扱う商店が紹介され、外国人参加者から「今度行ってみます!」という声があがりました。また、役場のSさんからは、地元の阿武隈急行の割引券の利用方法について説明があり、「ぜひ利用したい」と申請書類を何枚ももらう人も。

終了後のサポーター同士での振り返りでは、「自分の企画したイベントに『ひろば』の外国人参加者が来てくれた」「町内施設で見かけて声を掛け合った」といった「後日談」や、教員でもあるFさんからは「勤務する学校に『ひろば』参加者の外国人技能実習生に呼ぶことを企画している」といった話が聞こえてきました。「まるもり日本語ひろば」を拠点とした「多文化共生の輪」が着実に広がっているようです。



おすすめの商店の場所を地図で確認中

MIA日本語講座 第2期が始まります!



MIA 日本語講座を開講します。身近に日本語を勉強したい外国人がいいたら、ぜひご紹介ください。

多言語（日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、ウクライナ語）のチラシも用意しています。

クラス	曜日	時間	期間	テキスト	受講料	定員
初級1 初級2	火～金	10:00～12:00	10月8日(火)～1月24日(金)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥27,500 ※テキスト代別	初級1・2 各18人
中級	火・木	13:00～15:00	10月8日(火)～1月23日(木)	『できる日本語 初中級』	¥14,000 ※テキスト代別	18人
夜間初級1 夜間初級2	火	18:30～20:30	10月1日(火)～2月25日(火)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥14,000 ※テキスト代別	初級1・2 各18人

■場所：宮城県国際化協会（MIA） ■各言語のチラシ：https://mia-miyagi.jp/frommia/202402jc

■お申込み：事前の申し込みが必要です



シリーズ

外国人とともに働く

県内には1万6千人以上の外国人労働者がおり、私たちの暮らしを支える貴重な存在となっています。このシリーズでは、外国人を積極的に雇用している企業のさまざまな取り組みをご紹介します。

第2回 株式会社アステム(蔵王町)

空調用機器や排気口などの開発・製造、及び販売を行っている会社です。海外展開を考えていた2015年から、インドネシアの技能実習生を雇用しています。4人の1期生から始まり、現在では総勢20人が所属しています。

1期生を受け入れる前に、インドネシア人の生活習慣や考え方、宗教面で配慮すべきことなどについて、社内情報共有を図りました。私も含めて、作業がきちんとこなせるのかなど、少し不安もありましたが、実習生自身も事前研修を受けてきたこともあり、円滑に迎え入れることができたと思います。

実習生は板金、塗装、溶接のいずれかを担当し、各作業の専門職としてスキルを磨くこととなっています。仕事への向き合い方は日本の同年代の若者と変わらず、いたって真面目です。特に入社直後はハングリー精神旺盛で全力投球ですが、慣れるにつれてペース配分をつかむようです。

年間スケジュールを立てて、レクリエーションを実施したり、地域の行事へ参加したりしています。蔵王町国際交流協会さんの交流イベントは、同協会の法人会員になっていることもあり、積極的に参加するようにしています。今年は「遠刈田温泉仮装盆踊り大会」に初めて参加しました。インドネシアの民族衣装であるパティック姿で踊ったところ好評を博し、特別賞をもらいました。観客から「どこの国から来たの?」などと声を掛けてもらい、交流のきっかけともなったようです。本人たちも「疲れたけど楽しかった。また来年も参加したい」と笑顔で感想を述べていました。こうした行事への参加や協力は、社の理念でもある地域貢献につながる大切なことだと考えています。

技能実習期間を終えて帰国したOBが、これまでに9人、日本に戻ってきているのですが、なかには当社でまた働くことを望んで、わざわざ近く引っ越してくる者もいます。それから、OBから経験談や就労環境を聞いて、当社を選んで技能実習生として来日する者もいました。良い循環が生まれているようで嬉しく思います。現在はインドネシアに子会社も設立されているので、いずれはOBを現地で採用するなどして、インドネシアとの関係を一層強化したい、と考えているところです。

株式会社アステム 品質・安全課 和久智樹



遠刈田温泉仮装盆踊り大会に参加した際の様子

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

学校通訳学習テキスト 公立高校・特別支援学校編 監修:坪谷美欧子 編:西村明夫 発行:株式会社 松柏社



県内でも外国につながる子どもたちが増加傾向にあり、学校での通訳支援のニーズが高まっています。この書籍は、通訳の倫理・心得、在留資格等多文化についての知識、また高校への入学プロセス、高校での経費、支援制度、教育内容、学校生活など学校通訳に関する基礎や実践的知識を分かりやすく説明しています。また、外国人にとって意味が分かりにくいものや通訳として覚えておきたい約300の学校関係用語について英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、ネパール語の6言語の訳例が掲載されており、通訳をする際に参考になることでしょう。

※倶楽部MIAで紹介する本や冊子は、以下の対象者へ貸し出しをしています。*

- ①MIA日本語サポーター ②外国人児童生徒サポーター ③県内日本語講座に所属するボランティア日本語講師 ④外国籍児童生徒が在籍する県内小・中学校 ⑤MIA賛助会員 詳しくは、お問い合わせください。

MIAの国際理解教育支援事業では県内の小中学校等に外国人講師を紹介しています。このコーナーでは講師が自分の国を紹介する「とっておき」の方法をお伝えします。

第3回 輪ゴムのおもちゃ Cungi(ツンギ)

ドゥワディバワニさん ネパール連邦民主共和国出身



ネパールの紹介をするバワニさん



葉で作ったツンギ

ツンギ

子どもの頃、身近なものでおもちゃを作って遊んでいました。その一つがCungiです。Cungiは主に輪ゴムを束ねて作ります。ボールのようにリフティングをして回数を競います。見た目はゴムを束ねただけですが、実際にやると盛り上がりやすいです。ネパールでは高校生もCungiで遊ぶことがあります。上手な人だと200回くらい蹴り続けることができます。昔は輪ゴムではなく、自転車のタイヤチューブで作ったりもしました。近くの自転車屋さんに行って、いらなくなったタイヤチューブを貰い、輪切りにします。コツは太く切ると蹴る時に痛いので、細めに切ることです。山の方に住んでいる子どもは、タイヤチューブや輪ゴムすら手に入らないので葉っぱを束ねてCungiを作ります。

子どもはあまり知らない国のことでも、「本物」があると興味を持ってくれます。実際に見て触れることを大事にしたいので、Cungiの他にも帰国した時に集めた民族衣装などを持って行って、試着してもらいます。最近、宮城県内でもネパール人が増えましたよね。私がこのプログラムに初めて参加した頃は、ネパールのことを知っている人がとても少なく「インド?」と聞かれることがほとんどでした。他の国は知られているのに、母国の知名度が低く驚きました。また、知っていてもエベレストやヒマラヤのこと、貧困のイメージを持つ日本人も多かったです。私たちの母国は多民族国家ですし、他にも知ってほしい素晴らしい文化がたくさんあります。この国際理解教育支援事業がきっかけとなってネパールに興味を持ち、大人になった時に訪れる人が一人でもいたら嬉しいです。

みやぎの国際活動団体

石巻内モンゴル友好協会 事務局 門間博子さん

2005年に石巻市立須江小学校は、中国内モンゴル自治区の鄂温克旗(エヴェンキ)第一実験小学校と友好校締結に関する覚え書きを交わし、現在まで双方の児童の交流が続いています。当協会は、この交流を支援するとともに、石巻地区をはじめとした、多くの方々へ内モンゴル自治区について、またモンゴルの文化について理解を深めて頂くことを目的に活動を行っています。

交流が始まったきっかけは、戦前に旧満州(現在の内モンゴル自治区)で現地の子供たちの教育に尽力した女性が石巻市須江地区に移り住み、来日した教え子が再会を求めて恩師を探したことでした。私たちは「国や民族が違って、人と人は理解し合い、信頼し合うことができる」ということを、未来を担う子どもたちへ伝えたいと思っています。

今年の11月に、「モンゴル音楽と日本音楽の紹介とモンゴルの横笛リンポ、モンゴル舞踊の講座」を開催します。モンゴルと日本のそれぞれの伝統音楽のよさを味わい、互いの国やその文化に対する理解を深める機会になればと思いますので、お気軽にご参加下さい。

「モンゴル音楽と日本音楽の紹介とモンゴルの横笛リンポ、モンゴル舞踊の講座」

- 日時：2024年11月30日(土) 10:00~13:00
- 場所：竹林山 西雲寺会館(宮城県石巻市須江寺前63)
- 会費：無料 ■問い合わせ先：090-2024-3693(門間)



須江小学校と鄂温克旗(エヴェンキ)第一実験小学校の児童の交流の様子

サポーターの声

青木アタヤさん MIA外国人支援通訳サポーター(タイ語)



仙台市内のある総合病院で通訳をしました。タイ人の患者が薬をしっかりと飲まないことなどもあって病状がかなり悪化していて、病院がとても困ってMIAに相談をしてきたと聞きました。わたしが通訳をする前、そのタイ人患者は自分の病気がそれほど深刻だとは思っていませんでした。医師の説明をタイ語で聞いてようやく理解できたようです。これまでの通訳なしのときは明らかに違って、意思疎通がしっかりできた病院の方々も喜んでくださり、わたしもうれしく思っています。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。

- 賛助会員の資格**
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費**
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典**
◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙(倶楽部MIAの定期送付(年6回))
◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
◎入会方法
◎本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.135

編集・発行 公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通南宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL https://mia-miyagi.jp

